

7 おわりに

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度も昨年度に引き続き、個人的には大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務とそれ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。地域医療支援センターの定例ミーティングを前年度から開始し、今年も継続し、熊本県医療政策課との定例の連絡調整会議と合わせ、機構業務の確実な遂行してきたと感じています。また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医制度の熊本での導入と発展をされに推進し、「天草教育拠点」の設置が実現できたと感じております。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者との面談と分析・対応検討
- 2) 地域医療構想に関連して、県内の複数医療機関関係者との面談
- 3) 地域医療関連の卒前教育の充実化
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関の診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外のような依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、など）
- 7) 新しい診療・医学教育支援事項開発（マインドフルネス関連など）

に取り組んだつもりです。

上記業務は一定の成果が上がったと思われませんが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。次年度は、上記に加えて個人的には、新しく「地域医療対策協議会」の事務業務への関わり、大学病院の救急外来新体制構築、卒前の医学教育の更なる充実、等に向け、自部署関連の協力・強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 田宮 貞宏 特任准教授

本年度でくまもと県北病院機構公立玉名中央病院に玉名教育拠点が発足し4年となり、教育的側面としての医学生の実習、初期臨床研修および専攻医の研修と地域医療支援の側面の総合診療科としての診療は試行錯誤の連続ですが、発足の目的にかなう成果も一部ですが実感できるようになってきたと思います。

ただ、ルーチンとなってきた日々の活動を振り返ると私たちのビジョンからは程遠い。自分たちのみでできる範囲は飽和を迎え、今より前に進むためには周囲を巻き込まなければならない、次のフェーズに入ったことも実感しています。

これまで私は、ビジョンが共有されていないから個々の方策の元となる意志が曖昧になり、責任の所在も曖昧になる、ビジョンさえ共有できれば…、そう考えていました。しかし、そう単純な話ではないようです。リアルワールドでは、そもそも能動性と受動性が混ざり合い、意志が曖昧に、しばしば不在にさえなっています。臨床現場での治療や療養の意思決定も同様で、ある選択を選ばざるを得ない事ばかりです。

そのような中でも真摯に答えを求め、日々格闘する玉名教育拠点の若い力はとても頼もしいです。彼らに感謝しつつ、私は自分の責任だけは曖昧にせず、玉名教育拠点に集う仲間とともにありたいと思います。

■ 佐土原 道人 特任助教

平成29年度から地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になり、早いもので2年になります。診療では、週2回の大学附属病院での総合診療科外来、地域支援の外勤では、天草地域医療センターの総合診療科外来、公立玉名中央病院の救急部門にそれぞれ週1回にお世話になりました。9月から12月は、公立玉名中央病院での久しぶりの入院診療もさせていただきました。

研究では、科研費が採択され、やっと公衆衛生分野のご協力もあり、研究が緒についたばかりです。残り2年で形にしたいと思います。

今年度の水俣・芦北地域で行われた夏季特別学生実習は、印象的でした。学生の時代に、水俣病の自主検診やフィールドワークに参加した経験はありましたが、20年間熊本を離れて疎くなっていました。改めてこの実習で水俣病の現状を知る機会を得て、水俣病問題の過去と現在が繋がり、20年間の空白が埋まった気がしました。

学外での活動は、これまで臨床研修指導医講習会には多く関わってきましたが、今年度は、看護師特定行為指導者講習会に係ることが多くなり、6回タスクフォースとして参加しました。医師の働き方改革の個別の案件については、今後の検討会でなされていきますが、タスク・シフティングとタスク・シェアリングを進めるに当たり、この制度の普及は必須と考えています。制度の知名度が低いという問題もありますが、今後は、講習会のカリキュラム開発と研修実施機関の研修内容の方法論の開発と実践のお手伝いできればと思います。

来年度、総合診療科としてずっと外来を継続していた天草地域医療センターに第2の教育拠点が設置されます。常勤医の赴任に伴って、外来も引き継ぎ、係わりも減るかとは思いますが、今後の展開に期待したいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

今年度は「医師の働き方改革に関するアンケート」にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。小学生を育児中の医師のうち男性は当直・オンコールの回数が多く、女性は勤務時間が短く、男女ともに疲労度が高いことが明らかになりました。少子高齢化を迎え医師不足が深刻となる中、育児支援、マンパワーの確保、チーム制の構築、タスクシフトが益々重要となります。

女性医師のキャリア支援に携わるようになって4年余り、少しずつ「熊本県女性医師キャリア支援センター」の存在が周知されるようになり、女性医師からの具体的なご相談も多くいただくようになって参りました。どのようなキャリア支援を望むかは個々の家庭の事情や考え方によって多種多様であり、センターとしての経験値も勉強しながら上がっていることを実感しております。これからも様々なニーズに応えられるよう、精進してまいりたいと考えておりますが、上記に挙げたように、「チーム制を担える人材育成」を念頭に、男女共に医師の労働環境が改善できることを目指して支援を続けたいと考えております。これまで支えてくださった関係者の皆様に深く御礼申し上げます。また今後ともご指導、ご鞭撻、ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 小山 耕太 特任助教

2015年4月に公立玉名中央病院に学外教育拠点として設置された「地域医療実践教育玉名拠点」(当拠点)新設から早くも3年が経過しました。当拠点は、地域医療を志す医師、臨床研修医及び医学生に対し、総合診療医が地域医療を実践しつつ教育することで地域に貢献できる医師を養成し、更に地域の医師不足解消を目的としています。その一環で総合診療科を当拠点主導で新設し、外来・入院・在宅診療に取り組んでいます。指導医は常時3名が在籍し、来年度は増員の見通しです。卒前から卒後、総合診療専門医研修プログラム所属の専攻医まで、一貫した教育指導体制を整備することで、一定の効果を様々な方面から感じつつあるこの頃です。▶▶

現在、当拠点の取り組みによって得られた成果について、「平成29年度科学研究費助成事業」で調査中であり、来年度中には公に発表する予定です。

熊本での地域医療戦略を、熊本県外にも広く公開し、多くの方々のお役に立てるよう、更に発展的に取り組む所存ですので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 高柳 宏史 特任助教

平成30年度も、新たな取り組みを行いました。患者中心性、家庭医療学について熊本大学での講義を行いました。これからも家庭医療を卒前教育の中でふれていきたいと思えます。しかし、熊本県内では家庭医療を実践して教育する場は充実しているとはいえません現状にあります。今後の展望としては、家庭医療学の実践し、学べる場を作ることができたらと思えます。英国の澤憲明先生を熊本にお招きして、イギリスのプライマリ・ケア、家庭医について参加者とともに深めることができました。日本において、どのような方向性で活動していくか、議論をすることで深めることができました。とても感謝しています。熊本において、どのようなモデルを提示できるようになるか、これからが楽しみです。できなかった場合は、誰かがやってくれるでしょう。一人では無理です。今は仲間作りでしょうか。

夏期実習の企画と実施を通して、水俣地域の関係者の方々とのつながりを持つことができました。この水俣からこれからも学び続けようと思えます。七年前に他界された原田正純先生とお会いし、一度お話をしてみたかったです。もう少し早く熊本に戻ってきていれば、そして、水俣に目を向けていたら違っていたのだらうと思えます。原田先生の書籍を通して、自分の専門である家庭医療がさらに深まるのを感じました。

年を重ねるたびに、様々な経験をするたびに、患者さんとのコミュニケーションが少しずつ変わってきています。それが成長なのか、進化なのか、ただの変化なのか。これからも精進していきたいと思えます。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に当講座に着任し、早3年が過ぎ去ろうとしております。附属病院内の業務としては主に総合診療科の外来や学生の授業・実習等に携わり、また、地域医療支援としては2018年9月までは公立玉名中央病院（常勤）で、10月以降は上天草市立上天草総合病院、天草郡市医師会立天草地域医療センターで勤務を行って参りました。さらに、社会人大学院生として基礎研究にも取り組んでおります。

この1年間を振り返ってみて思うことは、本当に様々な貴重な経験をさせて頂いたということです。仕事・研究の面におきましては、Oxford Medical Case Reportsに「Two cases of numb chin syndrome diagnosed as malignant disease」が掲載されましたし（処女作）、社会人大学院の中間審査も無事に終わりました（しかし、まだまだ研究は続きます・・・）。プライベートとしては、新しい家族（娘）が増え、さらに賑やかになりました（嬉しい限りです）。本当に充実し過ぎたと言っても過言ではない1年間でした。まさに激走でした！！しかし、「ドM」的にはまだまだ走り足りなかったような気もしております。来年度はさらに飛躍の年になりますよう精一杯精進して参りたいと思えます。昨年同様、弱音を吐くことなく、自分に負けないよう努力し、よりアクティブに、攻めの姿勢で取り組んでいきます。

今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

2. 事務から

地域医療支援コーディネーターとしての5年間を振り返って

私が、地域医療支援コーディネーターとして業務に就いて、早5年間が経過しました。この3月で退任するに当たって、少し感慨を述べさせていただきます。

熊本県地域医療支援機構は平成25年12月に発足し、翌年4月に熊本大学医学部附属病院へ委託されると、同時に採用され、機構業務に取り組むことになりました。

当初は、機構の目的と業務の整合性ばかりに囚われ、寄附講座の業務に携わること

に戸惑ったりしました（医師修学資金を貸与された学生の卒前を寄附講座が担い、卒後を機構が担うというように住み分けています。）が、暗中模索の中で、任務としては違っても、目的とする方向が一緒であれば、分けて考える必要はないのではないかと大局的に考えられるようになりました。

そのきっかけとなったのは、最初の地域医療ゼミ（熊本県医師修学を貸与された学生を対象とするもので、1年生から5年生までが一緒になって毎月1回ゼミを開催し、夏季には地域医療特別実習も計画されます。）に参加して、学生達の姿を見たことでした。

学生たちを指導するのは寄附講座教員の役割ではありますが、多忙な教員がいつも対応できる訳ではありません。かといって、私が指導できる立場でもありません。しかし、何か困った時には一緒に考えることぐらいはできるのではないかと、その後は必ず参加することにしました。その後、寄附講座の活動にも積極的に深く関わることになりました。

また、夏季地域医療特別実習を、毎年御盆の時期に2泊3日の日程で実施していますが、実習を実施するために、受け入れ先へ何度も説明とお願いをして回るといっても恒例行事になりました。しかし、初年度は大変な苦勞がありました。何もノウハウがない状況でスタートしたものですから、どのようなことから始めるのかさっぱり分からず、結果として阿蘇医療センターの甲斐病院長のお蔭で、実施に漕ぎつける事が出来たのも今では良い思い出です。

コーディネーターとして、業務に就くと同時に入学してきた学生ももうすぐ最上位学年を迎えます。既に、卒業した医師は研修医も含め、20数人になりました。機構の目的をどれだけ達成できたか分かりませんが、私個人として、全員の顔を覚える事が出来たことは、少なからず自慢できるものとなりました。

振り返ると今年度も色々ありました。県外の医学生に熊本の地域医療を知ってもらう機会を提供する「ふるさと実習制度」（熊本地域医療実習支援制度）の利用者が初めてありました。山梨大学から1人、自治医科大学から3人の方の申し込みがあり、小国公立病院などから実習機会を提供してもらいました。学生さんにはおおむね好評でしたが、医療機関からは注文もありました。スターしたばかりであり、今後さらに一工夫する必要があるようです。

そして夏季実習は、以前勤務したことがある水俣・芦北地域でした。独身時代に水俣病の疫学調査で回っていた地域であり、水俣病資料館や関連の講義を聞き、改めて公害の原点に思いをはせたところでした。学生さんにとっても、集中的に水俣病のことについて総合的に学ぶ、良い機会であったと思います。

地域医療支援センターの事業については、毎月県の担当者の方との連絡会を開催しています。今年度は県の新規事業、天草教育拠点等など新たな動きがあり、地域医療支援機構5周年に相応しい展開がみられました。これからも関係の皆様と連携して微力ながらお役に立てればと思っていますので、よろしく願います。

今年度は、お留守番医師制度のシステムについてご理解していただく為、理事会（各郡市医師会）での説明会の開催や、個別に依頼のあった医療機関を訪問し、熊本県内色々な地域へ説明に伺いました。結果、復職支援としてのお留守番医師制度へ登録して頂いた医療機関も増え、「応援しています」との言葉もかけていただきとても感謝しております。

また、ホームページや知人からの紹介などで復職希望や働き方に対する相談の問い合わせも増えて、熊本県女性医師キャリア支援センターの取り組みが周知されるようになってきたように感じます。これからも、ホームページを通して当センターの取り組みを情報発信するとともに、専任医師の後藤先生と共に、悩んでいる医師の方々のお話を聞き、仕事と家庭の両立を頑張っていただけよう支援していきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしく願ひ致します。

柚原 敬三
地域医療支援
コーディネーター

坂田 正充
地域医療支援
コーディネーター

高塚 貴子
女性医師復職支援
コーディネーター

四年前からこちらの寄付講座で学生の皆さんに携わる業務をさせて頂いております。地域医療ゼミや、夏季実習時のフィールドワークでは、とても楽しい時間を一緒に過ごさせて頂きました。

久保 清美

また今年度からは、再びゼミの新入生歓迎会を開催し、1年生が早くから交流を深めることが出来たのではないかと思います。

実習で忙しい中、より良いゼミを企画しようと打ち合わせに来られる上級生には、毎回感動します。上級生の頑張りのお陰で、1年生も沢山参加してくださいました。下級生の皆さんも、上級生の皆さんの姿を見て、ゼミを引き継いで行ってくださることと思います。

学生の皆さんと過ごすなかで、皆さんの成長を大変嬉しく思っておりますが、なにより自分自身も成長させて頂いたと思っております。学生の皆さん、先生方、事務の皆さんに感謝し、これからもサポート業務に励みたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

機構及び寄附講座の講演会ポスター作成や報告書のデザイン・編集作業、活動写真の撮影、ビデオカメラでの撮影、映像の編集、スライドの作成、HPの編集・更新、オンライン診療支援ツールの運用管理、システムの開発、機器類の整備など、幅広く担当しています。

中川 実咲

「平成最後の」年間報告書です。自分が生まれ、育ち、働いた「平成」が終わることに感慨深さを感じています。ここまで平坦な道のりではありませんでしたが、いろいろな経験を経て、少しは大人に成ることができたのではないかと思います。

この一年では、「医師の働き方」について多くのことがメディアで取り上げられていたように思います。大きく変えるのはすぐには難しいものです。ちょっとずつでも私たちの活動が、医師の皆さんがより働きやすい環境へとつながっていくことを願っています。

昨年の6月から地域医療支援センターでお世話になり、主に医学科5年次の特別臨床実習(クリクラ)「地域医療」、1年、3年次の早期臨床体験実習(ECEI・III)等、学外実習に関する事務をお手伝いしております。初めての経験で、当初は説明会や実習後の振り返り会等で学生の皆さんと接することにすんなり慣れず、ただただ不安な日々でしたが、こちらでお世話になるにつれて、地域医療の医師偏在問題等、熊本市内で生活しては感じえなかった課題が県内各地にあることを知り、その解消に向けた取り組みのお手伝い出来る事を大変嬉しく思っています。私が出来ることはとてもとても微々たる事ではありますが、これから医師として自立していく学生の皆さんが、地域の実習でも円滑にかつ集中して学べるように、ご協力頂いている実習先14施設様との懸け橋になればと思っています。そしてこれらの実習等を通じて地域の現状を肌で感じた学生が、将来1人でも多く熊本の地域医療を志してくれることを願いながら、これからは先生方や事務スタッフの皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

山口 香

こちらにお世話になり3年目ですが、今年は1、2年目とはまた違った視点で、地域医療の問題と必要性を感じた年でした。

夏季実習で訪れたある施設では毎年経営は赤字だが、自分の人件費を削ってでも地域のためにと運営される方がいらっしやったり、後継者はいないかもしれないし自分も高齢でいつまで働けるか分からないが、動ける間は地域のために頑張ると言われる開業医の先生がおられたり、皆さんギリギリのところまで地域医療を支えられているのを知り、胸が痛くなりました。

医療関係者でもない私は、このような地域の方々を直接サポートはできませんが、将来地域で活躍する医師となる新専門医制度で新たにできた総合診療専門医の育成や、夏季地域医療実習で関わらせていただき、熊本の地域医療を様々な立場で支える方々を、陰ながら、縁の下の下の方でサポートできればという思いでこの仕事をさせて頂いております。今後ともよろしく願いいたします。

山並 美緒

今年は夏季実習のフィールドに初めて同行させていただきました。

訪問先の施設で説明に真剣に耳を傾ける姿や、健康増進施設を利用されている高齢者の方とお話しや、一緒に運動されている時の楽しそうな笑顔がとても印象的でした。普段、地域に出て何かするということがないので、私自身にとっても良い機会となりました。

さて、話は変わりますが、ここで働かせていただくようになり、はやくも3年が経とう

としています。前年度までは不安だらけでしたが、3年目になりますと基本的な業務は自信をもって行えるようになってまいりました。これも、事務員の皆さまならびに先生方、他部署の方など業務に関連する多方面の方々の支えがあるからだと感じております。いつもありがとうございます。

また、慣れてきたからこそ、一層気持ちを引き締め、地域医療支援機構及び地域医療支援センターの事業がより良いものとなるようサポートしてまいりたいと思っております。

横手 友紀子

2.あとかぎ

2014年度に地域医療支援センターが設置され、我々が赴任して今年度で5年目となりました。今年度は、震災から3年経ち、ほぼ通常業務の遂行できる状況になったと実感していますが、阿蘇方面は道路や鉄路がまだ完全に回復していない状況等も有り、地域住民や地域医療機関は、まだまだお困りの状況かと存じます。

「熊本県地域医療支援センター」としては、今年度も、県庁の医療政策課と協同で、地域の医療機関の関係者と更に密に情報交換を行なったつもりですが、次年度は、それが「天草教育拠点」として、新たな事業として開始される事となり、期待と同時に責任を感じ、様々な支援活動を行なっていきたいと願っております。男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、後藤特任助教と高塚コーディネーターを中心に新しい事業を着実に実行してもらっており、次年度の「熊本県勤務環境改善支援センター」との共同体制の構築も視野に入れ、活動する予定です。こちらも、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

「地域医療・総合診療実践学寄付講座」とは、今年度も合同で、卒前の地域医療関係の教育や、地域枠制度の推進、地域医療支援、総合診療医養成、等に尽力して参りましたが、新たな課題も見付き、改善を目指していきたいと思っております、次年度、新たな仲間も増える予定で、より協力体制を持って取り組んでいきたいと思っております。

次年度は、医師法・医療法改正に伴い、「地域医療対策協議会」の機能強化が求められる中、私どもの「熊本県地域医療支援センター」への求められる役割が大きくなると感じております。また、大学病院も谷原病院長の指揮のもと、新たに「熊本県地域医療ネットワーク構想」も開始される予定で、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながら協力していければと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

平成30年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

